

■「耕畜連携から消費まで」の現場視察

● 高橋牧場と田尻ハム

獣医が本業の高橋代表が「放牧した豚や牛は病気が少ない」事に20年ほど前から気付き放牧をはじめました。狭い畜舎と違ってストレスの少ない放牧で豚や赤牛を育てる事で、より栄養価の高い上質で柔らかい肉となるのです。その肉を使った「手作りハム」は美味し過ぎる!と口コミで広がり、好評を得ています。その牧場と工場を視察します。

● ハートフルランドジャージー牧場

ハートフルランドジャージー牧場では、お客様に本当に「おいしい!」を体験してもらうべく、「うまいもの塾」という農業体験塾を開いています。5月は田植え、7月は乳搾り…というように、各季節に合わせたメニューをご用意しております。また牧場の工場&直売所ではアイスクリームやヨーグルトが人気です。ここでは工場と直売所を視察します。

● 体験型農家レストラン 蔵楽

「農家がつくった手づくりの味を気軽に楽しめる場所」として出来た、蕪栗沼そばのレストランです。メニューは季節の野菜、蕎麦と豚料理が中心ですが、ここではソーセージづくり体験・そばうち体験・野菜収穫などの農業体験も出来ます。蔵は明治時代に築かれたものです。

■ラムサール条約登録湿地「蕪栗沼(かぶくりぬま)・周辺水田」視察

1971年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」においてラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)が採択されました。

現在、世界でのラムサール条約登録湿地は1591ヶ所。日本国内では37ヶ所が登録されていますが、そのうち北海道に12ヶ所、沖縄県が4ヶ所、宮城県3ヶ所、新潟県2ヶ所と続きます。それ以外は一つの県に複数に登録されていません。

宮城県では「伊豆沼・内沼」「化女沼」と、大崎市、登米市、栗原市にまたがる「蕪栗沼・周辺水田」が登録されています。登録に周辺水田も含まれている場所は幾つかありますが、名称に「水田」と明記されているのは世界で唯一「蕪栗沼」だけなのです。

蕪栗沼は天然記念物の真雁が60,000羽が集まる世界的な越冬地です。

その雁たちは「蕪栗沼で眠り、周辺の水田で餌をとります」。その為に蕪栗沼のある大崎市田尻町(合併前は田尻町)の周辺農家は「ふゆみずたんぼ」や「生き物と共生する米づくり」など様々な形で条約履行に協力しています。

蕪栗沼を地元NPOの「蕪栗ぬまっこらぶ」の皆さんのガイドで視察するとともに、田尻町の「耕畜連携と消費」などの現場も見学してまいります。



※5月の時期には雁はおりません。予めご了承下さい。